

日本基督教団 八ヶ岳伝道所 主日礼拝 NO.1133 2020年8月16日

牧師 山本 護 奏楽 山本 恵美 第一部礼拝 司式 竹内 雅子 9:30~10:30

※讚美は二番まで歌います

第二部礼拝 司式 渡部 敬子 11:00~12:00

前 奏	黙想	讚美歌	499	みたまよ、くだりて
讚美歌	53	さかえあるいこいの日よ	献金	
祈 禱			讚 詠	547
聖 書	コヘレトの言葉 12:7~8		黙 禱	
	ローマの信徒への手紙 8:15~16		主の祈り	564
讚美歌	177	かみのいきよ	讚 詠	545
説 教	『 霊を吸い、霊を吐く 』		祝 禱	
祈 禱			後 奏	※信仰告白は当面のあいだ省略します

「あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けた。この霊によってわたしたちは、〔アッバ、父よ〕と呼ぶ(ⅱマ8:15)」。先週聞いた「ガラテヤ書4:6」とほとんど同じ言葉じゃないか、と思うかもしれない。先週はガラテヤ書によって自由と平和へ導かれたが、今週はロマ書の似た御言葉がどこへ連れて行ってくれるのか。何が語りかけられ、何を問うて来るのか。

私たちが神の子とする霊によって、私たちは神を「アッバ、父ちゃん」と呼ぶ。ヘブライ語の幼児言葉「アッバ」があえてそのまま伝えられているのだから、このニュアンスが大事。文言の意味ばかりでなく、その空気も柔らかく手で包みたい。神を「父ちゃん」と呼ばしめる「霊」に注目しよう。

幾度も語って来たが、「霊」は旧約でも新約でも「風」「息」と同じ言葉。呼吸だとするなら、霊は吸う息と吐く息のどちらなのか。ニンニク食ったあとの臭い息も霊なのか。偉いカルヴァン先生は、神の全能や全権を徹底するあまりに、人間の方はどうも貶めた感じで語っている。それだと霊は「吸う息」のイメージになるだろう。神からの新鮮で清らかな霊が人間の内に入り、十字架を力あるものにする。神の言葉を聞くように「霊を吸う」方向性になるが、それだけじゃないだろう、と私は思う。

「この霊こそは、わたしたちが神の子供であることを、わたしたちの霊と一緒に証ししてくださる(ⅱマ8:16)」。聖霊が、私たちの霊と一緒に証しする。清らかな聖霊が、ニンニク臭さと混じり合って「吐く息」となる。御言葉を聖霊によって吸ったなら、吸いっぱなしではいられない。挫折感、みっともなさ、自惚れ、手柄話、根拠なき希望というガラクタ。愛おしいガラクタの中にあつた「私の霊」が聖霊と一つになって吐き出され、キリストを証しする。証しされるキリストには個々人の臭いが染みている。新たに吸い込んだ聖霊は、私の霊として愛おしいガラクタの中に留まる。

「塵は元の大地に帰り、霊は与え主である神に帰る(ⅱマ12:7)」。やがて寿命が尽きた時、私の霊は与え主の許に帰る。火葬される骨は、大地に帰ったら窒素・リン酸・カリの働きをするだろう。これは死後だけの話ではない。今この瞬間、御言葉と共に命の霊を吸って神に帰り、私の臭さが入り混じった霊を吐いて大地に帰る。コロナの三密対策しながら、息の本質、霊の働きをリアルに教えられた。

「なんと空しいことか、とコヘレトは言う。すべては空しい、と(12:8)」。空しいとは否定的な表現ではない。むしろ清々しさではないか。やっどこさ人生の役割を終えれば、名誉や失敗はなく、金や責任も消失する。さみしいような、さっぱりしているようなこの奇妙な軽みは、死後のことであると共に、恵みとしての「時」が与えられている、今この瞬間のこととして受け取りたい(2:24~26)。

聖霊の息を吸ったなら、私たちは神を「アッバ、父ちゃん」と呼んで(ⅱマ8:15)霊の息を吐く。キリストによる神は、想像するよりも遥かに近い。いや、呼吸の度に肺で直接触れている。私たちは見えない父ちゃんを見ている。聞こえない御言葉を聞いている。限りあるまま、永遠に直に触れている。

御言葉を聞くだけではすぐ満杯 だから御言葉は手渡したい 霊はまず吐き出さなければ吸えない
宣教などと大仰なことではない 教会はソーシャル・インスタスしていても 霊なる息を相互に循環させる

礼拝開始時刻 本主日から当分の間、礼拝を①9:30~10:30、②11:00~12:00 の二回行ないます。三密回避の試みですが、ひとまず自由にどちらかの礼拝へご出席下さい。CSをする場合は9:00~。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HPは「日本基督教団八ヶ岳伝道所」で検索して下さい。